

国内最大級のクラシック音楽の祭典 「東京・春・音楽祭2026」概要発表

開催期間: 2026年3月13日 [金] ~ 4月19日 [日]

春が訪れ ^{はな}桜がひらいて 音楽が始まる 上野の森に

東京・春・音楽祭実行委員会（実行委員長：鈴木幸一）は、桜咲く春の上野を舞台にした国内最大級のクラシック音楽の祭典「東京・春・音楽祭2026」を、2026年3月13日（金）から4月19日（日）まで約40日間に亘り開催いたします。

文化の集積地・上野公園の各施設（東京文化会館、各美術館・博物館等）を拠点に、国内外一流アーティストによるオペラ、オーケストラ、室内楽、リサイタルなど、幅広いコンサートを多様な空間でお届けし春の訪れを彩ります。

「東京・春・音楽祭」は2005年に「東京のオペラの森」として始まり、2009年に現名称に改称、2024年に20回目の春を迎えました。22年目となる2026年、東京春祭の“顔”となってきた「ワーグナー・シリーズ」にはアレクサンダー・ソディを指揮に迎え、NHK交響楽団とともに《さまよえるオランダ人》を演奏します。これまで「ワーグナー・シリーズ」をけん引してきたマレク・ヤノフスキは「合唱の芸術シリーズ」でシェーンベルクの大作《グレの歌》を、来年に創立100年を迎えるN響と、東京オペラシンガーズと演奏。また、現代最高のピアニスト ルドルフ・ブッフビンダーは、東京春祭オーケストラとともに、二夜にわたってベートーヴェンのピアノ協奏曲全曲を弾き振ります。

2024年に《ラ・ボエーム》でタクトをとったピエール・ジョルジョ・モランディが、再び「プッチーニ・シリーズ」に出演。読売日本交響楽団、新国立劇場合唱団らと《マノン・レスコー》をお届けします。来春は2プログラムを予定している「合唱の芸術シリーズ」では、上記の《グレの歌》に加え、ハイドン《四季》をアイヴァー・ボルトン指揮／東京都交響楽団と。演奏機会が少ない、貴重な作品をお楽しみいただけます。

2005年以来、音楽祭の拠点である東京文化会館は来年5月から改修休館となります。日本の音楽史に揺るぎない功績を残す殿堂で、20年以上にわたり公演を重ねてきた想いを込めて、東京春祭にゆかりのあるメンバーによる室内楽ガラ公演も予定しています。

東京春祭3年目の出演となる気鋭の現代音楽集団アンサンブル・アンテルコンタンポランや、2024年のシェーンベルク 弦楽四重奏曲 全曲演奏会で人気を博したディオティマ弦楽四重奏団、バッハの大家トレヴァー・ピノックによる2公演や、欧州で活躍する注目の歌手陣をはじめ、国内外の一流アーティストによる室内楽やリサイタル、没後30周年を迎える武満 徹をフィーチャーしたプログラム、人気のミュージアム・コンサート、ドイツ・バイロイト音楽祭提携による「子どものためのワーグナー」、上野の街を舞台に小さな音楽会を展開する「桜の街の音楽会」も開催いたします。22年の歴史を振り返るとともに、新たな舞台に向かうための大切な年となる音楽祭に、ぜひご期待ください。



上野の春の風物詩、東京・春・音楽祭

「東京・春・音楽祭」は、桜咲く上野を舞台に東京の春の訪れを音楽で祝う、国内最大級のクラシック音楽の祭典です。長い冬が終わり、桜前線の知らせが聞こえ始める3月中旬に始まり、街が桜色に染まり、花吹雪から新緑を感じるまでの間、街が華やかに変化する時の躍る心をクラシック音楽で祝いたいと2005年に始めました。

2026年もオペラやオーケストラ、国内外一流アーティストによる室内楽をはじめとする演奏会から、街角で気軽に楽しめる音楽との出会いの場まで、様々な音色で東京の春の訪れを彩ります。

■これまでの延べ公演数	2,054公演
■これまでの延べ入場者数	583,289名
■これまでの延べ演奏者数	18,884名（2025年：546名）
■2025年公演数	136公演（有料公演：73、無料公演：63）
■2025年入場者数	42,446名（有料公演：32,940名、無料公演：9,506名）
■2025年配信視聴者数	13,881名（有料配信のみ）



「東京・春・音楽祭2026」開催概要

期間：2026年3月13日[金]～4月19日[日]

会場：上野恩賜公園（東京）一帯、東京文化会館、東京藝術大学奏楽堂（大学構内）、
旧東京音楽学校奏楽堂、東京国立博物館、国立科学博物館、東京都美術館、国立西洋美術館、
上野の森美術館 / 他

主催：東京・春・音楽祭実行委員会

共催：東京文化会館（公益財団法人東京都歴史文化財団）（申請予定）

後援：文化庁／東京都／台東区（予定）

協力：一般社団法人 上野観光連盟／上野の山文化ゾーン連絡協議会
上野文化の杜新構想実行委員会（予定）

助成：公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド

URL：<https://www.tokyo-harusai.com>

「東京・春・音楽祭2026」10のポイント

- ① 2つのオペラ作品、4つのオーケストラ公演 巨匠と俊英がそろい踏み
- ② ベートーヴェン×ブッフビンダー×東京春祭オーケストラ ついに大ホールで公演！
- ③ オペラ、オーケストラ、室内楽など、国内外一流アーティストが奏でるクラシック音楽
- ④ 近現代～コンテポラリーのプログラムも充実
- ⑤ ありがとう、そしてまた会う日まで！ 東京文化会館 改修休館前の最後の響き
- ⑥ 東京春祭ならではの、個性的なシリーズ企画の数々
- ⑦ 上野公園の美術館・博物館を舞台にした「ミュージアム・コンサート」
- ⑧ 子どもたちがクラシック音楽と出会う場！「東京春祭 for Kids」
- ⑨ 舞台は上野の街中！「桜の街の音楽会」など無料イベント多数開催
- ⑩ 高音質・高画質・自由視点映像でのライブ・ストリーミング配信を実施

1 2つのオペラ作品、4つのオーケストラ公演 巨匠と俊英がそろい踏み

東京春祭の“顔”となってきた「ワーグナー・シリーズ」を過去8回にわたり指揮したマレク・ヤノフスキは「合唱の芸術シリーズ」でシェーンベルクの大作《グレの歌》を、信頼するNHK交響楽団、東京オペラシンガーズ、世界の第一線で活躍する歌手陣と演奏します。2026年は同楽団の創立100年というアニバーサリー・イヤー。欧米でも様々な名門楽団が記念年に演奏している演目を、東京春祭でお楽しみいただけます。同じく「合唱の芸術シリーズ」として、ドレスデン祝祭管弦楽団やモーツァルテウム管弦楽団を率いてきた、古典派を得意とするアイヴァー・ボルトン指揮／東京都交響楽団によるハイドン《四季》も予定。演奏機会の少ない名作をご堪能いただけます。

「ワーグナー・シリーズ」には、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いで活躍し、ウィーン国立歌劇場、ベルリン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場等、著名な劇場から引く手あまたな俊英アレクサンダー・ソディを迎え、NHK交響楽団とともに《さまよえるオランダ人》をお届けいたします。

「プッチーニ・シリーズ」は、2022年、2024年と、同シリーズでの指揮で好評を博した、イタリア・オペラに精通する名匠ピエール・ジョルジョ・モランディが、読売日本交響楽団、新国立劇場合唱団と《マノン・レスコー》を演奏します。

東京藝術大学奏楽堂では、加藤昌則が「ザ・ヴォーン・ウィリアムズ」と題した公演を神奈川フィルハーモニー管弦楽団と。作曲家や演奏作品にまつわるお話も交えた公演を予定しています。

2 ベートーヴェン×ブッフビンダー×東京春祭オーケストラ！ ついに大ホールで公演！

2024年から3年連続での出演となる、現代最高のピアニスト ルドルフ・ブッフビンダー。これまで、ベートーヴェン ピアノ・ソナタ全曲演奏会とシュベール世界3公演を通じ、その度に円熟味あふれる演奏で観客を魅了してきたブッフビンダーですが、2026年のはついに東京文化会館 大ホールで公演。リッカルド・ムーティ指揮の公演でも評価の高い東京春祭オーケストラとともに、ブッフビンダーが生涯をかけて向き合ってきたベートーヴェンのピアノ協奏曲全曲演奏会を二夜にわたって弾き振りいたします。2027年に没後200年という大きな記念年を迎えるベートーヴェン。その前哨イヤーにふさわしいプログラムとなりました。

3 オペラ、オーケストラ、室内楽など、 国内外一流アーティストが奏でるクラシック音楽

20年以上にわたり、国内外の一流アーティストが一斉に集う音楽祭として不動の地位を築いてきた東京・春・音楽祭。世界水準の公演を日本のみならず、アジアや世界の音楽ファンにお届けするため毎年彩り豊かなラインナップをそろえてきました。

バッハの大家トレヴァー・ピノックは昨春に続き、首席指揮者を務める紀尾井ホール室内管弦楽団を率いての公演に加え、エマニュエル・パユらとともに、ソロを交えたそれぞれの魅力を存分に堪能できるバロック・プログラムを。

2026年に没後30周年をむかえる武満 徹をフィーチャーした公演として、委嘱作品も多い荘村清志のギター公演と、村松稔之の歌曲公演を予定。人気・実力ともに高い藤木大地は、昨春にスタートしたシリーズ「にほんの歌」を2公演にわたって展開し、近現代の日本歌曲の魅力を再発見します。待望の日本初リサイタルとなる、人気急上昇中のマリア・ドゥエニャス、若い世代のピアニストの中でも多くの聴衆を魅了しているアレクサンダー・マロフェーエフ、最注目バリトン アンドレ・シュエン、再始動するジュピター・カルテット・ジャパンら、最旬の音楽を紹介する公演の数々に、東京春祭でしか聴くことのできないプログラムで春の上野を彩ります。

4 近現代～コンテンポラリーのプログラムも充実

古典から近現代、コンテンポラリーまで、幅広い音楽を楽しめるのも東京春祭の魅力の一つ。20世紀後半のイギリスを代表する作曲家であり、2026年に没後50年を迎える**ブリテンのカンティクル**を中心にした公演では、四半世紀以上にわたって作られた全5作の歌曲を。

毎回、その斬新なプログラムと追従を許さない高い演奏力で会場を静かな熱気に包む**アンサンブル・アンテルコンタンポラン**は、来年に生誕100年を迎えるジェルジュ・クルターグの作品に加え、ジョージ・ベンジャミンが手掛けた最初のオペラ《小さな丘へ》を含む2公演をお届け。世界中で再演される注目作品が満を持して日本初演を迎えます。

2024年におよそ6時間をかけたシェーンベルク弦楽四重奏曲 全曲演奏会を展開し、その高い集中力と実力で観客を圧倒した**ディオティマ弦楽四重奏団**が再び東京春祭に出演。彼らの名前の由来となったルイジ・ノーノの「断片―静寂、ディオティマへ」は必聴。また、ミュージアム・コンサート 上野の森美術館でもコンテンポラリーな響きを現代美術に囲まれた特別な空間でお楽しみいただけます。

5 ありがとう、そしてまた会う日まで！ 東京文化会館 改修休館前の最後の響き

20年以上にわたり東京春祭の拠点である**東京文化会館**は、2026年5月から約3年間の改修休館に入ります。世界でもトップレベルの見事な音響を誇り、日本の音楽史をけん引してきた殿堂で、2005年より演奏会を重ねてきた想いを込めて「オープニング・ガラ・コンサート 室内楽の夕べ」と称した、音楽祭にゆかりのあるメンバーによる2公演を予定。東京春祭と共に経験を積んできた演奏家らを中心に、まさにこの年、東京文化会館でしか聴くことができない必聴のプログラムで、音楽祭の開幕を飾ります。

6 東京春祭ならではの、個性的なシリーズ企画の数々

世界で活躍するソリストやオーケストラから選りすぐりの名手が集まり、またとない音楽との出会いの場があるのも東京春祭ならではの魅力のひとつ。多彩なテーマや編成で、音楽の魅力を余すことなくお届けします。

「マラソン・コンサート」や郷古 廉&加藤洋之による「〈Geist und Kunst〉室内楽シリーズ」、「ディスカヴァリー・シリーズ」も聴き逃せません。来春に通算50回目の開催を迎える「**歌曲シリーズ**」では、珠玉の歌い手がそれぞれの得意なレパートリーを披露。オペラや合唱とはまた一味も二味も違う、親密な空間ならではの歌とピアノのハーモニーをご堪能いただけます。

7 上野公園の美術館・博物館を舞台にした 「ミュージアム・コンサート」

上野公園内に点在する、日本を代表する美術館・博物館の展示室内や講堂で開催される人気のミュージアム・コンサート。2006年からスタートしたこの企画は、美術館や博物館が持つ荘厳な空間で、国内外のアーティストたちが、各特別展や会場の特徴に合わせたコンサートを開催いたします。

人気展覧会とのコラボレーション企画は、その時代を生きた芸術家たちの息吹に触れることができる貴重な機会です。展示室内での公演や、重要文化財である建物内での公演など、文化の集積地上野ならではの特別な空間での鑑賞もお楽しみください。

8 子どもたちがクラシック音楽と出会う場！ 「東京春祭 for Kids」

未就学のお子様から高校生まで、幅広い年代を対象とした様々なプログラムを提供し、毎年好評の「東京春祭for Kids」。バイロイト音楽祭提携の「子どものためのワーグナー」では《さまよえるオランダ人》を親しみやすくアレンジしてお届け。同音楽祭の総監督カテリーナ・ワーグナーが監修をつとめます。

また、毎年人気の子どものための絵本と音楽の会や公開リハーサルなど、様々な年齢のお子様を対象にクラシック音楽の魅力をお伝えします。（2026年1月詳細発表予定）

9 舞台は上野の街中！ 「桜の街の音楽会」など無料イベント多数開催

上野周辺のみならず、オフィス街など都内の様々な場所を舞台に無料のミニ・コンサートを展開している「桜の街の音楽会」。今春は合計29か所で56公演を行い、多くのお客様に音楽をお届けしました。次春も、3月初旬ごろから4月中旬にかけて開催予定。気軽に音楽に触れあえる最高の場を創出します。お出かけの際は、音楽祭公式サイトで開催スケジュールのチェックをお忘れなく！（2026年2月詳細発表予定）

10 高音質・高画質・自由視点映像での ライブ・ストリーミング配信（有料）を実施

会場にご来場いただけない方にも、東京春祭の公演をお楽しみいただけるように始めた「東京・春・音楽祭LIVE Streaming」。これまでに引き続き、高音質・高画質・自由視点映像で実施いたします。ライブ配信ならではの臨場感を、皆さまそれぞれのスタイルでお楽しみください。（2026年2月詳細発表予定/権利関係の都合により配信されない公演もございます。）



■2つのオペラ作品、4つのオーケストラ公演

- 東京春祭の“顔”となってきた「ワーグナー・シリーズ」に新たな息吹が吹き込まれる。17回目を迎える来春は、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いで活躍し、メトロポリタン歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ウィーン国立歌劇場等、著名な劇場から引く手あまたな**アレクサンダー・ソディ**が**NHK交響楽団**とともに、音楽祭では2019年以来となる《さまよえるオランダ人》を演奏。世界の檜舞台で活躍する**カミラ・ニールンド**、**ディヴィッド・バット・フィリップ**、**ミヒャエル・クプファー＝ラデツキー**らのほか、東京春祭でのファンも多い**タレク・ナズミ**がロールデビューするのにも注目。世界最高レベルのワーグナーの歌手が一堂に会す（東京文化会館 大ホール4/5, 7）。
- 2026年春は2つの「合唱の芸術シリーズ」を予定。昨春の同シリーズでベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》を指揮した**マレク・ヤノフスキ**は、シェーンベルクの大作《グレの歌》を、信頼する**NHK交響楽団**、**東京オペラシンガーズ**と演奏。《さまよえるオランダ人》にも出演する歌手らに加え、**アドリアン・エレート**を語り手に迎え、世界最高レベルの歌手陣がそろそろ。一夜限りの貴重な演奏会となることは間違いない。（東京文化会館 大ホール3/25）。



- 「合唱の芸術シリーズ」もう一つの公演は、ドレスデン祝祭管弦楽団やモーツァルテウム管弦楽団を率いている、古典派を得意とする**アイヴァー・ボルトン**指揮／**東京都交響楽団**／**東京オペラシンガーズ**によるハイドン《四季》。実力派の歌手陣と共に、演奏機会の少ない貴重な名作をお届けする(東京文化会館 大ホール4/12)。
- 読売日本交響楽団**と共に「プッチーニ・シリーズ」《マノン・レスコー》をお届けするのは、2022年、2024年と、同シリーズでの指揮で好評を博し、イタリア・オペラに精通する名匠**ピエール・ジョルジョ・モランディ**。プッチーニの名を世に知らしめた名作で華やかに閉幕を飾る(東京文化会館 大ホール4/16, 19)。
- 3年連続での出演となる当代一のベートーヴェン作品のスペシャリスト **ルドルフ・ブッフビンダー**は、満を持して東京文化会館 大ホールで公演。**東京春祭オーケストラ**とともに、ブッフビンダーが生涯をかけて向き合ってきたベートーヴェンのピアノ協奏曲全曲演奏会を二夜にわたって弾き振り。2027年に没後200年という大きな記念年を迎えるベートーヴェンの、前哨イヤーにふさわしいプログラムを堪能していただきたい(東京文化会館 大ホール4/4, 6)。
- 東京藝術大学奏楽堂では、**加藤昌則**が「ザ・ヴォーン・ウィリアムズ」と題した公演を**神奈川フィルハーモニー管弦楽団**とお届け。作曲家や演奏作品にまつわるお話も交えた公演を予定している(東京藝術大学奏楽堂 4/5)。

■東京文化会館 休館前最後の響き

- 2026年の東京春祭が閉幕した直後の5月から、約3年の期間で改修休館に入る東京文化会館。世界でもトップレベルの見事な音響を誇り、日本の音楽史をけん引してきた殿堂で2005年より演奏会を重ねてきた想いを込めて「オープニング・ガラ・コンサート 室内楽の夕べ」と称した、音楽祭にゆかりのあるメンバーによる2公演を予定。メンデルスゾーンやシューベルトの弦楽八重奏曲などで、東京文化会館と共に経験を積んできた演奏家を中心に、まさにこの年、東京文化会館でしか聴くことができない必聴のプログラムで開幕を祝う(東京文化会館 小ホール 3/13, 14)。

■オペラ、オーケストラ、室内楽など、国内外一流アーティストが奏でるクラシック音楽

- 世界的アーティストを一堂に楽しめるのも東京春祭ならではの、J. S. バッハの大家として知られ、チェンバロ奏者としても名実ともに名高い**トレヴァー・ピノック**は、音楽監督を務める**紀尾井ホール室内管弦楽団**を率いた公演(東京文化会館 小ホール3/29)に加え、トリオでも出演。**ジョナサン・マンソン**(チェロ)、**エマニュエル・パコ**(フルート)とともに、バッハとテレマンを(東京文化会館 小ホール3/20)。
- 待望の日本初リサイタルとなる、人気急上昇中のヴァイオリニスト **マリア・ドゥエニャス**は、多くの国際的コンクールで賞に輝く**アレクサンダー・マロフェーエフ**のピアノでシューベルトやドビュッシーを(東京文化会館 小ホール4/2)。若い世代の中でも多くの聴衆を魅了しているマロフェーエフは、翌日にリサイタルも予定している(東京文化会館 小ホール4/3)。
- 務川慧悟**は、村上春樹のエッセイからインスパイアされた「日曜日の朝のフランシス・プーランク」と題した公演をお届け(東京文化会館 小ホール3/22)。いま注目を集めているピアニスト **角野未来**は、ドビュッシー ピアノ三重奏曲 ほかを(旧東京音楽学校奏楽堂 3/14)。**コハーン**(クラリネット)は、ウェーバーの没後200年に寄せた演奏会を(旧東京音楽学校奏楽堂 3/21)、**赤坂智子**(ヴィオラ)と**佐藤晴真**(チェロ)はバラエティに富んだ、実力派ならではのプログラムを(旧東京音楽学校奏楽堂 4/11)、**大井 駿**はフォルテピアノでバロック・ヴァイオリン、バロック・チェロとともに、ハイドンのピアノ三重奏曲をお届けする(旧東京音楽学校奏楽堂 4/18)。当時桐朋学園の学生だった植村太郎、佐橋まどか、原麻理子、宮田 大により2004年に結成され、各人が実力を蓄えた今、再始動する**ジュピター・カルテット・ジャパン**も聴き逃せない。ヴィオラに**今井信子**を迎え、ベートーヴェン 弦楽四重奏曲 第12番とブラームス 弦楽五重奏曲 第2番を(東京文化会館 小ホール4/18)。



■幅広い音楽ファンの土壤に

- 2026年に没後30年を迎える、日本を代表する作曲家 **武満 徹**を記念した公演も予定。武満と親交が深かったギタリストの**荘村清志**は、武満によるギター代表作を多数取り上げる（東京文化会館 小ホール 3/15）。カウンターテナーの**村松稔之**は武満の歌曲集を歌い上げる（旧東京音楽学校奏楽堂 4/4）。
- ピエール・ブーレーズが立ち上げた**アンサンブル・アンテルコンタンポラン**が3年連続で出演。来年に生誕100年を迎えるジェルジュ・クルターグの作品に加え、ジョージ・ベンジャミンが手掛けた最初のオペラ《小さな丘へ》を含む2公演をお届け。日本初演を含む挑戦的なプログラムに期待が高まる（東京文化会館 小ホール4/4, 5）。
- 20世紀後半のイギリスを代表する作曲家であり、来年没後50年を迎えるブリテンのカンティクル（讃美歌）を中心にした公演も予定。四半世紀以上にわたって作られた全5作の歌曲を実力のある歌手らとホルン、ピアノ、ハープで奏でる（東京文化会館 小ホール4/6）。
- 世界各地のオーケストラで活躍する音楽家が、東京春祭ならではのメンバー構成で演奏するのも音楽祭の魅力の一つ。10回目を迎える**ベルリン・フィル**のメンバーによる室内楽では、同楽団のコンサートマスター **クシシュトフ・ポロネク**が東京春祭でもおなじみのメンバーと登場。メモリアルイヤーの武満も含むプログラムで、質の高い演奏を約束する（東京文化会館 小ホール4/17）。N響メンバーによる室内楽公演では、首席トランペット奏者 **菊本和昭**を中心に金管アンサンブルをお届け（東京文化会館 小ホール3/21）。ヴァイオリニスト**堀 正文**のもと、実力派の若手らで結成される**東京春祭チェンバー・オーケストラ**は、モーツァルト「ハフナー」ほかを奏でる（東京文化会館 小ホール3/19）。
- 2024年に、約6時間に及ぶシェーンベルク弦楽四重奏曲 全曲演奏会を展開し、その高い集中力と実力で観客を圧倒した**ディオティマ弦楽四重奏団**が再び東京春祭に出演。カルテットの名前の由来であるノーノ「断片ー静寂、ディオティマへ」と、ベートーヴェン 弦楽四重奏曲 第15番で再度観客を魅了する（東京文化会館 小ホール4/11）。

■東京春祭ならではの、個性的なシリーズ企画の数々

- 長原幸太**を筆頭に、第一線で活躍する音楽家が集う「名手たちによる室内楽の極」（東京文化会館 小ホール4/15）や、**郷古 廉&加藤洋之**による東京春祭〈Geist und Kunst〉室内楽シリーズ（東京文化会館 小ホール3/31）、ヨーロッパ文化史研究家 **小宮正安**がナビゲートする、モーツァルトとウェーバーの周年を記念したマラソン・コンサート（東京文化会館 小ホール4/12）など、今年も聴き逃せない・見逃せないシリーズ企画が並ぶ。画家としても類まれな才能を発揮したリトアニアの作曲家 ミカロユス・コンスタンティナス・チュルリョーニスは、国立西洋美術館での展覧会に紐づいたミュージアム・コンサートでも取り上げられるほか、**リトアニア室内管弦楽団**を迎えディスカヴァリー・シリーズでも掘り下げる（東京文化会館 小ホール3/26）
- 2025年から始まった新シリーズも引き続き開催。演出家の**田口道子**が企画構成を務め、名作を深堀りする「東京春祭〈よく解る〉シリーズ」のvol.2は《マノン・レスコー》を日本人歌手たちの演奏と共に紐解く（東京文化会館 小ホール4/11）。カウンターテナーの**藤木大地**は近現代のにほんの歌をテーマに、**松田華音**と**實川 風**をピアノに迎え2公演をお届けする（東京文化会館 小ホール3/21, 4/15）。
- 通算50回の開催を迎える「歌曲シリーズ」では、人気・実力ともに高い**クリストフ・プレガルディエン**が、**渡邊順生**をフォルテピアノにむかえてシューベルト《白鳥の歌》を中心としたプログラムを（東京文化会館 小ホール4/7）。その高い表現力でいま最も注目されているバリトン **アンドレ・シュエン**も、**ダニエル・ハイデ**と共に得意とするシューベルト作品をお届け（東京文化会館 小ホール4/14）。**カミラ・ニールンド**、**アドリアン・エレート**、**ディヴィッド・バット・フィリップ**も、それぞれ待望のリサイタルを予定している（東京文化会館 小ホール 3/27, 3/28, 4/10）。

どれも東京春祭でしか聴くことができないラインナップをお楽しみいただきたい。

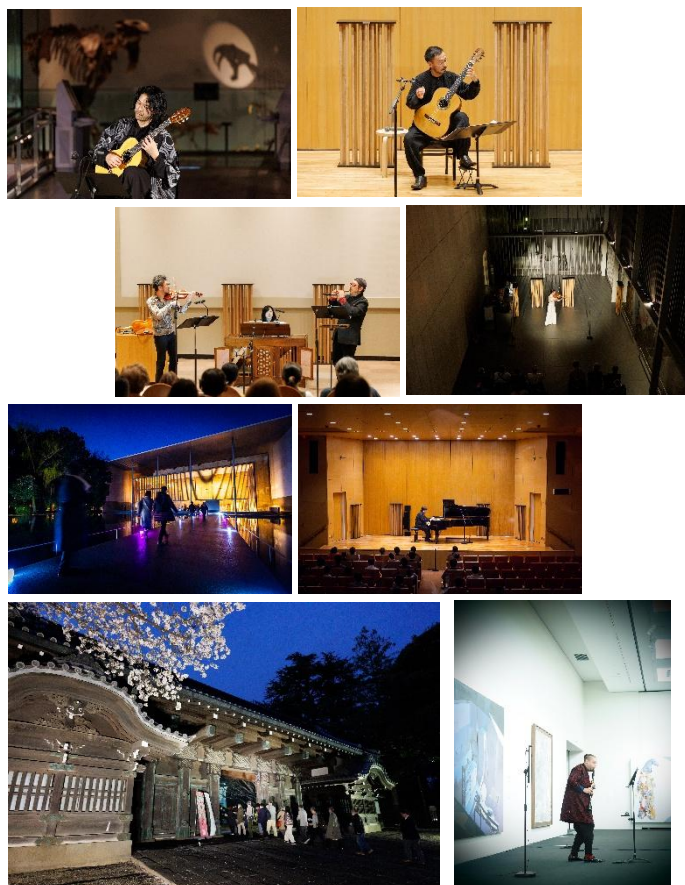
■上野公園の美術館・博物館を舞台にした 「ミュージアム・コンサート」

J. S. バッハの作品を中心にしたシリーズを展開している東京国立博物館では、**堀米ゆず子**（ヴァイオリン）が無伴奏ヴァイオリン・ソナタ&パルティータ 全曲演奏会を二夜にわたって展開。欧州で学ぶ**山下愛陽**（ギター）のほか、昨年同シリーズで無伴奏チェロ組曲で名演を繰り広げた**辻本 玲**が出演する弦楽トリオも。合計6公演を予定している。（辻本のしんじょうは一点しんじょう）

国立科学博物館では、恒例の**NHK交響楽団のメンバー**による室内楽など、合計5公演を予定。

VOCA展と毎年コラボレーションしている上野の森美術館では、**新野将之**（パーカッション）と**上森祥平**（チェロ）が現代美術作品の前で演奏する。

音楽祭の期間中、東京都美術館では「東京都美術館開館100周年記念 スウェーデン絵画 北欧の光、日常のかがやき」が、国立西洋美術館では「チュルリョーニス展 内なる星図」が開催。それぞれの展覧会を記念し、展示テーマに沿ったコンサートを実施する。



■子どもたちがクラシック音楽と出会う場！ 「東京春祭 for Kids」

パイロイト音楽祭提携の「子どものためのワーグナー」では、同音楽祭の総監督**カタリーナ・ワーグナー**を監修に迎え、《さまよえるオランダ人》を親しみやすくアレンジしてお届け。

毎年人気の**子どものための絵本と音楽の会**を実施するほか、東京文化会館 大ホールでのオペラやオーケストラ公演の**公開リハーサル**も実施予定です。（2026年1月詳細発表予定）



公演詳細は決定次第
公式サイト(www.tokyo-harusai.com)にて順次発表

【公演に関する注意事項】

やむを得ぬ事情により出演者や曲目等が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

資料に関するお問い合わせ、取材依頼、画像貸出依頼は事務局までご連絡ください。

東京・春・音楽祭実行委員会 広報担当

TEL (03) 5205-6401 FAX (03) 5205-6403 E-mail press@tokyo-harusai.com

一般発売に先駆け どこよりも早く！

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス 先行発売

www.tokyo-harusai.com

東京文化会館 大ホール公演

①11月8日[土]12:00～11月12日[水]23:59

- ・東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.17 《さまよえるオランダ人》 S～B席
- ・東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.13 シェーンベルク 《グレの歌》 S～B席
- ★初日のみ電話受付有 12:00～15:00 ☎050-3498-1053

②11月9日[日]12:00～11月12日[水]23:59

- ・東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.14 ハイドン《四季》 S～B席
- ・R.ブッフビンダー ベートーヴェン ピアノ協奏曲全曲演奏会 S/A席、2公演セット券
- ・東京春祭プッチーニ・シリーズ vol.7 《マノン・レスコー》 S～B席
- ・プッチーニ・シリーズ 《マノン・レスコー》 / 〈よく解る〉シリーズ《マノン・レスコー》の2公演セット券
- ★初日のみ電話受付有 12:00～15:00 ☎050-3498-1053

東京文化会館 小ホール公演

12月7日[日]12:00～12月10日[水]23:59

- A. 東京春祭 歌曲シリーズ5公演セット
- B. アンサンブル・アンテルコンタンポラン 2公演セット券
- C. Myセレクト3（東京文化会館小ホール公演の中から好きな3公演を選ぶセット券）

一般発売

東京文化会館 大ホール公演：11月30日[日]10:00

東京文化会館 小ホール公演、東京藝術大学奏楽堂公演、

旧東京音楽学校奏楽堂公演：12月14日[日] 10:00

ミュージアム・コンサート、東京春祭 for Kids 子どものためのワーグナー / 他：2月1日[日] 10:00

※各種セット券は先行発売期間のみの販売です。

※U-25チケットは2026年2月13日[金]12:30発売（公式サイト限定取扱）

※ネット席（ライブ・ストリーミング配信チケット）は2月中旬発売予定

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービスでは以下の購入プランもご用意しています

東京・春・音楽祭2026公式プログラム付チケット

公式プログラムをネットで予約、
会場で受取

東京・春・音楽祭2026全公演を網羅し、「これ一冊で東京春祭を100倍楽しめる」と人気の公式プログラムを、チケットと同時に事前予約購入できます！

U-25スペシャル★

東京文化会館の平日公演をお得に楽しめる！

例年好評の「U-25 スペシャル★」（18,000円）を今回も販売いたします。サブスク感覚の「通い放題チケット」で2026年の東京・春・音楽祭を満喫してください！
東京文化会館大ホール＆小ホールで、平日に開催される公演が鑑賞可能です。

お問合せ

東京・春・音楽祭サポートデスク 050-3496-0202

【営業時間：月曜、水曜、金曜、チケット発売日10:00～15:00】

※11月5日[水] 10:00 開設

上野恩賜公園

1873（明治6）年の太政官布達により、芝、飛鳥山等と共に日本で初めての公園として開園。江戸時代は、東叡山寛永寺の境内地であったが、1924（大正13）年に宮内省を経て、東京市に下賜された。当初は寛永寺社殿、東照宮それに境内の桜を中心とした公園であったが、その後、博物館、動物園、美術館等が建てられ、文化の香り高い公園へと衣替えた。2023年に開園150周年を迎えた。



旧東京音楽学校奏楽堂

東京藝術大学音楽学部の前身、東京音楽学校の校舎として、1890（明治23）年に建築され、日本における音楽教育の中心的な役割を担ってきた。2階の日本最古の洋式音楽ホールは、かつて瀧廉太郎、山田耕筰、三浦環らが演奏をした由緒ある舞台。1983（昭和58）年に台東区が譲り受け、移築後、一般公開を開始、1988（昭和63）年には重要文化財の指定を受けている。2018（平成30）年11月にリニューアルオープン。

東京藝術大学奏楽堂(大学構内)

1998（平成10）年、移設された旧奏楽堂の跡地に、コンサートホールとして新しく建設。ホール全体が一つの優れた楽器として考えられ、多様な使用目的に対応した音響空間になっている。フランスのガルニエ社製オルガンが設置され、学内外の音楽家によるオーケストラ、オペラ、合唱、邦楽、室内楽等が催されている。

東京国立博物館

1872（明治5）年創立、日本で最も長い歴史を持つ博物館として日本を中心に広く東洋諸地域の文化財を収集・保管・展示しています。

所蔵品の数は12万件を超え、本館、東洋館、平成館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館の6つの展示館があります。

季節や年中行事に合わせた催し、教育普及事業なども行っており、多岐にわたる事業を通して世界中の人々に愛されています。

東京都美術館

1926（大正15）年、日本初の公立美術館として開館。国内外の名品を楽しめる特別展や企画展、公募展など、多くの展覧会を開催するほか、アート・コミュニケーション事業など、「アートへの入口」としてさまざまな事業を展開し、「心のゆたかさの拠り所」となる美術館を目指している。

国立西洋美術館

1959（昭和34）年6月、フランス政府から寄贈返還された松方コレクションを基に、ル・コルビュジエの設計により開館。中世末期から20世紀半ばまでの作品による常設展に加え、企画展も充実の国立美術館。2016（平成28）年7月、国立西洋美術館を含む「ル・コルビュジエの建築作品ー近代建築運動への顕著な貢献ー」が、世界遺産に登録された。

国立科学博物館

1877（明治10）年創立、日本最大級の総合科学博物館です。常設展示では「人類と自然の共存をめざして」をメインメッセージとし、恐竜の化石や大型動物の剥製など自然史の標本や、日本の科学技術に関する資料などを幅広く展示しています。

日本館は国指定重要文化財であり、ネオルネサンス様式を基調とした重厚な建物や、柔らかな光が差し込むステンドグラスも見どころです。

上野の森美術館

上野公園内にある私立の美術館で、日本美術協会の美術展示館を設備し、1972（昭和47）年に開館。以来、所蔵品の公開のほか、「VOCA展」をはじめ、話題となる展覧会を開催している。

東京文化会館

1961（昭和36）年4月の開館以来、数多くのオペラ、バレエ、クラシックコンサートが行われてきた。建物は前川國男設計による代表的なモダニズム建築であり、「音楽の殿堂」として親しまれている。





2026年4月26日[日]、29日[水・祝]、5月1日[金] リッカルド・ムーティ指揮 オペラ《ドン・ジョヴァンニ》上演！

東京・春・音楽祭実行委員会と公益財団法人 日本舞台芸術振興会、ならびに日本経済新聞社は、3者共催でオペラ『ドン・ジョヴァンニ』（作曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト、指揮：リッカルド・ムーティ）を主催する運びとなりました。

世界的指揮者のリッカルド・ムーティは近年、舞台装置付きのオペラ公演の指揮を精選しており、本拠地のヨーロッパにおいてもオーケストラピットに入ることは極めて稀になりました。そんなムーティが長年、深い愛情を持って指揮してきた東京春祭オーケストラ、ならびに何度も共演を重ね、厚い信頼関係で結ばれている東京オペラシンガーズという日本を代表する合唱とともに、モーツァルトの傑作オペラに挑みます。また、舞台装置・衣裳は、トリノ王立歌劇場ならびにパレルモ・マッシモ劇場の共同制作(2022年初演)。マエストロ・ムーティが厳選した歌手陣をむかえて上演いたします。

本公演の会場となる東京文化会館は2026年5月より長期休館に入ることが決まっており、今回の舞台が改修前最後のオペラ公演となります。マエストロ・ムーティをはじめ、日欧の第一線で活躍する芸術家たちがお贈りする貴重な公演にどうぞご期待ください。

オペラ『ドン・ジョヴァンニ』

指揮：リッカルド・ムーティ
演出：キアラ・ムーティ
美術：アレッシンドロ・カメラ
照明：ヴァンサン・ロングマール
衣裳：トンマーズ・ラガットツァ

2026年 4月26日 [日] 14:00
4月29日 [水・祝] 14:00
5月1日 [金] 14:00

東京文化会館 大ホール

ドン・ジョヴァンニ：ルカ・ミケレッティ
ドンナ・アンナ：マリア・グラツィア・スキアーヴォ
ドンナ・エルヴィーラ：マリアンジェラ・シチリア
ドン・オッターヴィオ：ジョヴァンニ・サラ
レポレロ：アレッシンドロ・ルオンゴ
ツェルリーナ：フランチェスカ・ディ・サウロ
マゼット：レオン・コーシャヴィッチ
騎士長：ヴィットリオ・デ・カンポ

管弦楽：東京春祭オーケストラ
合唱：東京オペラシンガーズ

S=¥59,000 A=¥46,000 B=¥36,000 C=¥28,000 D=¥21,000 E=¥15,000
サポーター席= ¥109,000（寄付金付きのS席） U39シート=¥13,000 U29シート=¥10,000

- ・チケット一般発売 2025年10月30日 [木] 10:00より ※先行発売で満席となった席種は販売しない可能性があります。
- ・U39シート&U29シート 2026年3月19日 [木] 19:00より ※NBS WEBチケットのみでお取り扱い

オペラ《ドン・ジョヴァンニ》公式サイト <https://www.nbs.or.jp/stages/2026/dongiovanni/>

主催：公益財団法人日本舞台芸術振興会 / 東京・春・音楽祭実行委員会 / 日本経済新聞社